

春夏どりに適したコンパクトネギの新品種 「こいわらべ」、「すずわらべ」

消費者の嗜好やライフスタイルの変化により、従来よりも小型の野菜へのニーズが高まっています。そこで農研機構では、葉鞘が短くて太い、しかも軟らかく良食味を有するコンパクトネギ品種の育成に取り組み、2009年に冬どり栽培に適した「ふゆわらべ」を、2012年には、より幅広い栽培時期に高い収量・品質を示す「ゆめわらべ」を育成しました。しかし、「ふゆわらべ」及び「ゆめわらべ」は、一般のネギと同様に、春～初夏(4～6月)の生産においては抽だい(とう立ち)の発生による収量の低下、また、夏季(7～9月)の生産では高温下での生育停滞等により収量及び品質の低下がみられ、周年供給は困難でした。そこで、抽だい時期が遅く春～初夏の生産が可能な品種、及び夏季の栽培でも収量性の高い品種を育成し、コンパクトネギの周年供給を可能にしましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 春から夏に安定生産できるコンパクトネギ品種「こいわらべ」及び「すずわらべ」を育成しました(図1)。
2. 「こいわらべ」は、抽だい(とう立ち)が極めて遅い性質があるため、4～6月の安定生産が可能です。「すずわらべ」は7～9月の高温期でも生育が旺盛で、収穫物の形状もよく揃うことから、秀品収量が多くなります。
3. 両品種とも全体に短く、ネギの白い部分(葉鞘部)の太りが早いため、一般の根深ネギよりも20cmほど短いサイズで出荷できます。また、葉鞘部だけでなく、緑の部分(葉身部)も軟らかく辛みが少ないため、捨てる部分なくまるごと食べられるという特徴をもちます。
4. これまでに育成した「ふゆわらべ」(冬どり用)や「ゆめわらべ」(秋冬どり用)にこれらの品種を組み合わせるにより、コンパクトネギの周年供給体制が確立できます(図2)。



図1 こいわらべ(左)、すずわらべ(右)
(両図とも右は対照の根深ネギ)



図2 各コンパクトネギ品種の想定される収穫時期

☆ 活用面での留意点

1. 「こいわらべ」及び「すずわらべ」の種子は、民間種苗会社等に利用許諾を行い、販売される予定です。
2. 詳しいことは、農研機構野菜花き研究領域(TEL:050-3533-4607)までお問い合わせ下さい。
(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)